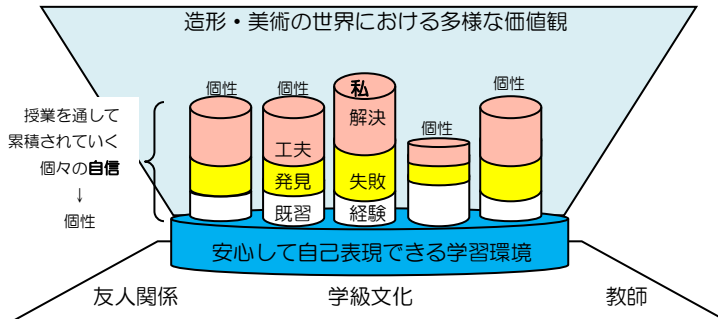


図画工作科 教科提案

平成 28 年 1 1 月

●教科目標

造形・美術の世界を通して価値観の広がりを感じ、**かかわりのなかで自信をもってつくり出していく力**を育てる図画工作科学習。



造形活動における個性とは、「その子らしさ」「得意技」「持ち味」。
自分のよさに気づいていく充実した造形活動の過程でこそ友だちのよさを大切に思う心が育まれる。
安心して自己表現できる学習環境の設定こそ子どもが自己実現へ向かう出発点になる。

●「子どもたちが自信をもち学び続ける」ための図画工作科授業デザイン

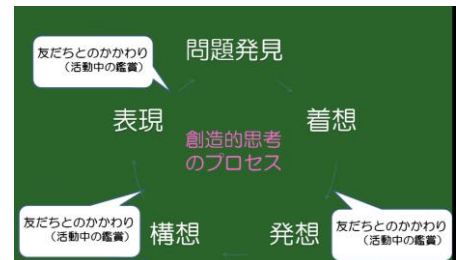
「創造的思考」

問題に直面したときに、新しくて有意義な着想を生み出す思考である。
 与えられた条件から多くの可能な解答を出す発散的思考であること。

日本大百科全書(小学館)より

「創造的思考」を深める3つの要素

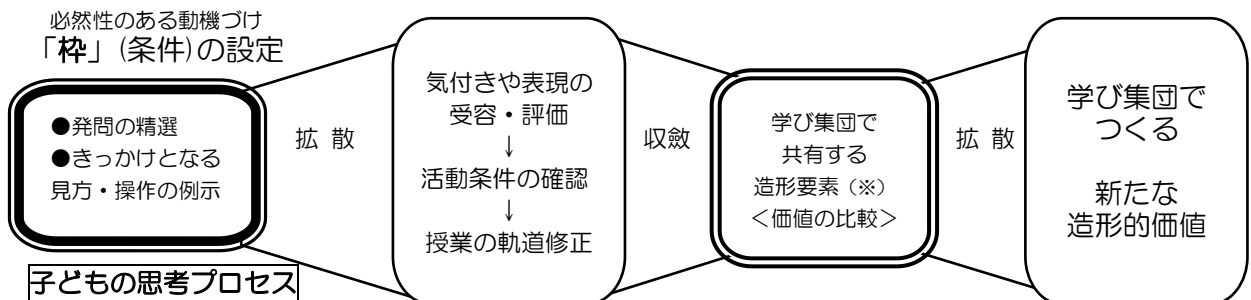
1. 自分らしい気づきや見方を引き出す題材設定 → **明確なスタートラインと「がんばれば越えられそうな」ハードル**
2. 活動中、自発的に繰り返される鑑賞 → 友だちと「ちがうところ」が「いいところ」
3. 自分の考えや表現を俯瞰するための場(時間) → 伝えたり、書いたりすることで自分を再確認



【授業の流れ】

- ① 導入 → ② 展開Ⅰ → ③ 収束 → ④ 展開Ⅱ → ⑤ まとめ

授業者の見通し



子どもの思考プロセス

「面白そう!」「やってみたい」 「私の工夫が紹介されて嬉しい」 「あの子のやり方がいいな」 「この場合はこっちの方法が良さそうだね」
 「私にもできそう」「何となくできた」 「みんなと違うことをやっていた」 「色々な方法を発見できた」

- ・無意識的な操作
- ・偶然性からの見立て
- ・造形遊び的試行錯誤

- ・活動途中での評価 → 自己肯定感
- ・自他の表現に見られる価値の比較
- ・より明確な問題解決へ向かう思考

- ・意図的(意識的)な表現方法の選択
- ・目的意識

●「自信」にまつわる各学年の子どもたちの姿

【4年】

題材のねらいをしっかりと理解しようと聞き入る学習への姿勢と、自分らしさを表現しようと工夫を重ねる粘り強さが感じられるようになってきた。ただ、中学年によく見られる「仲良しと同じ表現で満足」「自分なんてどうせ…」という連帯感からくる妥協、評価された経験の不足からくる不安を払拭できるように鑑賞の場面を増やし自信をつけていきたい。

【5年】

班での表現活動において、自分の思いをなかなか提案できない子どもも少なからずいる。どの子ども自分の役割に達成感を得られるような話し合いの方法を探り、グループ内・学級内での自己肯定感を徐々に高めていきたい。

また、個人内のふりかえり(ポートフォリオ)を毎時間つづけていくことで、達成感と課題意識の両方を自覚していきながら、少しずつ子ども同士で評価ができるようにしたい。

【6年】

友だちと協力しながら、既習経験をいかして、表現方法を自分の思いに合わせて組み合わせることができている。自分の完成予想イメージへ向けて一歩ずつ活動を進める根気強さをもっと身につけさせたい。また、描画について苦手意識がやや強い傾向があるので、1学期は遠近法の視点を意識した風景画に取り組み、徐々に今後も自信をつけてきている。

研究テーマとの関連	学年目標	各学年における「自信をもち学び続ける子どもたち」の期待する姿	具体的な手立て
	3年 共生・共感	●同じ材料や表現方法から自分の思いを広げる活動を通して、互いの工夫のよさを感じ合う学び集団に向けて。 低学年での異なる造形活動の経験をいかしつつ、自分の表現を仲間に出出できる人間関係・雰囲気構築し直す。	○活動途中や終盤で鑑賞学習をこまめに設定し、互いの作品や活動を見合えるようになる素地をつくる。 ○題材ごとに作品を教室前に掲示するなど、日常も互いの作品について語り合える環境をつくる。
	4年 自立・発見	●自分らしい表現を発見する活動を通して、互いの考えのちがいやよさを伝え合う学び集団に向けて。 同じ題材の中で発見した自分の発想を発表する機会を増やし、互いの表現から刺激を受け合う関係をつくりだす。	○発見したばかりの発想を見合うことができる掲示板を活用し、具体的なちがいを実感しながら質問し合う場面をつくる。 ○付箋紙を使った鑑賞カードを併用。授業後もふり返る工夫をする。
	5年 協働・啓発	●ひとつの表現目標を共に実現しようとする活動を通して、互いの思いを活かしながら高め合う学び集団に向けて。 仲間との協働場面における達成感やもどかしさの中で、自分の活動や表現をふり返り積極的に考えを発見し合える関係をめざす。	○「班での共同制作」と「鑑賞学習」を繰り返し、表現活動を通して豊かに語り合う雰囲気を再構築する。 ○協働する活動・協議する場面を分析し、語られた思いのズレや共感についてのつづやきを授業全体へ反映させる。
	6年 自己表現・批評	●自分の表現目標を達成しようとする活動を通して、個々の表現に自信をもち批評し合う学び集団に向けて。 自分の表現をより深めるため見直す場面を意識させ、互いの改善点をアドバイスし合うことができる関係をめざす。	○導入時に「構想カード」を、製作中に「鑑賞カード」を活用することで、互いの考えを批評し合う具体的な資料にする。 ○全校児童や保護者へ向けた、作品の上映会や作品展を広く開催し、自分の表現に自信を深める場を積極的に設定する。

◆「自信をもち学び続ける子どもたち」をめざして、育てたい力と題材カリキュラムの構成

幼児期	1年	2年	3年	4年	5年	6年	中学美術
【幼稚園】 主体的な活動遊びを通して個の生活経験豊かな感性表現する意欲 【保育園】 【家庭】 親からの承認	つくりだすことへの 関心・意欲	実生活への働きかけ 自分なりの意味生成	共生・共感 学級づくり	自立・発見 学級文化の醸成	協働・啓発 学級づくり	自己表現・批評 学級文化の醸成	美術を愛好する心情 美術の基礎的な能力 美術文化への理解 社会とのつながり 豊かな情操
	低学年総合学習における造形活動		互いの工夫のよさを感じ合う	互いの考えのちがいやよさを伝え合う	互いの思いを活かしながら高め合う	個々の表現に自信をもち批評し合う	
	本全体の感覚で 興味のある対象	形や色の見立て 自分なりの物語	動きや操作から生まれる発想	造形体験を通して発見する見方や表現	自分なりの感じ方・見方→自分の主題 空間認識への芽生え、描画への意欲(遠近法等)		
	楽しいことを 思いついて	身近な事物に造形の面白さを感じ取る	さまざまな材料	新たな用具・技法	材料と場所の特徴	統合→卒業製作	
	造形遊び		造形遊び		造形遊び		